

2012年から2014年まで、小学校用のコンパクトで供給水量の大きい浄水機開発に苦勞した。  
また、周辺コミュニティとの話し合い、設置後のメンテナンス担当に係る政府協議に1年かかった。



バンドン工科大学ウェンテン教授の研究室との、浄水機共同開発を決定



2012年、最初の試作浄水機は、供給水量があまりにも少なかったため不採用。



2012年、東ジャワ政府の国際協力局長リリー氏と、具体的な設置方法を協議。



2013年、工業施設用の大型浄水機からの第一次コンパクト化。供給水量は十分だが、大きすぎた。



2013年、東ジャワ州では、Sidarjo 県に設置することを決め、小学校の選定に入った。C.P.I.から選定の基準を説明。鍵は周辺コミュニティにある。



2014年、小学校用のコンパクトな浄水機の開発を完成させた。